

EduMed活動最終報告

2025.2.12

代表：太田 優里奈（臨床心理学コースM2）

発表者：山口泰聖・川岸歩実（臨床心理学コースM1）

EduMedの活動方針

入院中の子どもたちのQOL向上に寄与するとともに、医療スタッフや家族以外の第三者のかかわりをつくり子どもが子どもでいられる関係・時間をつくる。また、学生に入院児や慢性疾患のある子どもの実態について体験的に知る機会をつくることで多職種連携や実践現場で様々な子どもの支援について理解を深める。

前期からの課題

広報的な活動ができておらず、活動を知ってもらうことが優先事項
ニーズの把握を十分にできておらず、打ち手が先行してしまった可能性

病院アンケートからわかったこと（前期の活動）

- コロナをきっかけにボランティア活動を中止し、受け入れ再開をしていない
- 院内学級がある場合は学習の対応が取れているが、その他病院の現状は不明
- オンラインでの活動ができるほど、ネットワークの環境が整ってはいない
- 入院中の児童生徒はいるものの、かなり少数であること

⇒ 活動自体を見直し、**誰にどんな支援を届けるかを考え直すきっかけ**
に

後期の活動報告

【活動成果】

1. 信州大学医学部附属病院にてロボット活用のイベント
2. 学外の団体・企業とのかかわり
3. 活動内容の発信

外部機関への相談

★活動の現状を相談させていただきました

○一般社団法人ニューメディア開発協会

⇒ オンラインの支援用ロボットを貸与させていただいている

【いただいた知見】

多くの支援実績の中から有効なアプローチ先は、

①院内学級の先生、②病院のコーディネーター、③子どもあるいはその親御さん

学校の先生は学校に来ている子供の対応で手一杯になることも少なくない

外部機関への相談

★活動の現状を相談させていただきました

OKAYOUプロジェクト

⇒ 学習塾を運営しながら、プログラムの一環として長期療養児の支援を実施

【いただいた知見】

学習支援が必要とされる人は多くない。まず、社会福祉の担当業務をしている人に認知してもらうことが重要。“知ってもらう活動”を地道に行うことでつなげてもらえることもある。

外部機関への相談から分かったこと

EduMedの現状

- ・ 院内学級のある病院とのつながりのみで、行政機関に存在を知られてはいない
- ・ 学生団体であり、継続した支援ができるかどうかの不安定要素が大きい
- ・ 長野県内で院内学級のない病院に対して、病院側からボランティアで参画して
いくことが難しい

ロボット体験イベント

信州大学医学部附属病院にてロボットを活用したイベントを実施

参加したお子さんの声（参加者4名）

- ・初めて触る機械で面白かった
- ・操作が難しかったけど楽しかった

参加した先生の声（旭町中の校長先生、院内学級の先生4名）

- ・新しい機材の活用をされていて引き出しが広い。活用を検討したい
⇒ ICTを活用するための一歩となった

学習支援

長野赤十字病院にて、経過入院をしたお子さんに、学習支援を実施（4月、8月）

お子さんの声

中3だし受験も控えている、苦手教科の勉強を進められてよかった

病院の看護師さんからの声

- ・看護師がみられない部分について、詳細に報告していただき、ありがたかった
- ・将来の展望を聞いて、患児に対して新たな視点を持つことができた
 - ⇒ 学習支援を継続していくことの意義をより実感することができた

活動内容の情報発信

実施した活動内容や提供できることを
まとめたチラシを発信することで
“知ってもらうこと”に取り組んだ

活動レポート

学習支援活動

入院中の中学生を対象に学習支援を行いました。好きな教科を自由に選びながら、自分のペースで勉強を進めることができました。テスト前や苦手教科など毎々の気持ちに合わせて勉強内容は決めています。勉強だけでなく、ゆっくり大学生と話をすることもできるので大学のこと、進路のこと、受験のことなども話すことができました。ふだんと違って誰かといっしょに勉強を進められる時間を有意義に使ってくれていました。



イベント企画の開催

9月、入院中の子どもたちを対象に「モルック」を体験するイベントを開催しました！モルックは、フィンランド発祥の木製ピンを倒して得点を競うスポーツで、誰でもすぐに楽しめます。今回は、初めてモルックを体験する子どもたちも多かったですが、すぐにルールを覚えて楽しんでいました。大学生メンバーやスタッフも一緒に参加し、子どもたちとチームを組んで対戦しました。子どもたちだけでなく、大人もみんなでプレーすることができました！ゲーム中は、「次はどのピンを狙う？」「行け！」「行け！」といった声をかけ合いながら、和気あいあいとした雰囲気になっていました。みんなが笑顔で体を動かし、楽しい時間を過ごすことができました。こうした遊びや活動を通じ、入院中の子どもたちが少しでも楽しい時間を過ごせる機会をこれからも作っていきたくと思っています。今後はモルックに限らず、他のスポーツや遊び、工作なども企画して開催していく予定です！

子どもたち：倒すのが面白かった！

スタッフ：久しぶりの笑顔が見れました！



今後の活動

EduMedでは、今後も学習支援やイベントを継続して実施してまいります。お問い合わせは随時受け付けておりますので、どうぞお気軽にご連絡ください。

学習支援



大学生と1対1で個別の学習支援を行っています

イベント企画



病院とご相談しながら院内学級などで工作やレクリエーションなどイベントの開催をしています。

大学生との交流



信州大学とオンラインの遠隔で連絡することで大学経験や学生との交流をすることができます

課題となったこと・今後の展望

◎ 外部の人とのつながり

→ 一般社団法人の方にロボットを貸与していただき、イベントの実施につながられた。また学習塾のプログラムの一環として長期療養児の学習支援を行っている企業ある。学生団体ではなく、一企業であることで支援が途切れないと考えてもらいやすくなり、病院としても安心材料になっている。

いかにして継続した支援ができるか、ボランティア団体として続いていけるか？

◎ イベント内容の幅

- 社会経験ができそうなイベントを企画・運営（例：社会科見学など）
 - ▶ いろいろな方々も巻き込みながら実践を広げていきたい

今後の展望

◎ 本活動の意義を発信する

→ 病院に学生が支援に入り続けることはハードルも高い

一方、実際に活動を行えばこどもの姿の変化や病院の看護師の方々の捉え方は変わる。その意義をどう言葉にして、輪を広げられるかが入院中の子どもたちに教育/支援を届けるために重要だと感じる

今年度もご支援して頂き、ありがとうございました。

次年度以降も引き続きよろしくお願いいたします！